

女性の週間

問合せ 人権推進課

3月1日～8日は「女性の健康週間」

女性は妊娠や出産をする可能性があるなど、生涯を通じて、男性とは異なる健康上の問題に直面することがあります。しかし、日本の女性の検診率は低い状況にあり、女性特有の病気が若い世代に増えつつあることも心配されています。ぜひ、この週間を機に検診を受けるなど、自分の身体を大切にすることを考えてみてください。

また、本市では「第3次泉佐野市男女共同参画推進計画（人ひとプラン）」の中で、「生涯にわたる男女の健康支援」を基本課題の一つとしています。

男女が互いの身体的性差について、理解を深め、お互いを尊重し思いやりをもって生きていくことは、誰もがいきいきとした社会づくりにはとても大切なことです。

※検診について、詳しくは健康推進課ホームページをご覧ください。

3月8日は「国際女性デー」

国連は1975年（国際女性年）に3月8日を国際女性の日としました。女性に対する差別撤廃と、社会開発への完全かつ平等な参加に向けた環境整備に貢献することが日本を含め各国に期待されています。

世界経済フォーラムは2023年、各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数を発表し、日本は146カ国中125位でした（2022年は146カ国中116位）。特に政治、経済分野において格差が大きい日本の状況が反映していると考えられます。国際的視野においても、日本の社会は男女の平等が進んでいるとは言い難い状況です。

日本は日本の文化、社会の状況などにも配慮しつつ、国際的な概念や考え方を重視し、国際的な協調を図ることが必要です。そのためにも、私たち一人ひとりが身近な暮らしの中の慣習や意識を見直し、男女がともに暮らしやすい環境について考えることが大切です。



※参加無料

申込・問合せ 電話、eメールでNPO法人ゆまにて（☎458・7522 eメール：yuma@nife2020@skypalata.or.jp）へ

後援

泉佐野市、泉佐野市教育委員会

講師 柳谷和美さん（おやこひろば桜梅桃李代表）

定員 100人（先着順）

場所 レイクアルスタンプラザ・カワサキ生涯学習センター

日時 3月30日（出）

午前10時～正午

性暴力被害当事者として顔と実名を公表し、メディア出演や各地での講演活動を行っている柳谷さんとともに子どもたちの性や性被害について考えます。

子どもと関わる

大人のための性教育

被害者にも加害者にも

させないために

夜間中学で勉強しませんか（生徒募集）

いろいろな事情で小学校や中学校を卒業できなかった人、実質的に十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した15歳以上の人、夜間中学校でいっしょに勉強しませんか。

- 入学の受付は4月30日（火）までです。（土・日曜日、祝日除く）
- ひらがなから勉強できます。
- 大阪府内に住んでいる人が入学できます。
- 外国籍の人も入学できます。
- 授業料は無料です。

問い合わせ

- 泉佐野市立佐野中学校
泉佐野市教育委員会教育部教育総務課（☎463-1212）
- 岸和田市立岸城中学校（☎438-6553）
岸和田市教育委員会総務課（☎423-9607）

犯罪被害者等見舞金制度

令和4年12月、泉佐野市議会で犯罪被害者等支援条例が可決され、令和5年1月1日より施行されました。

犯罪被害を受けた市民やその遺族の被害の回復・軽減を目的に見舞金が支給されます。

【遺族見舞金】

犯罪などの被害により、お亡くなりになられた被害者の遺族…30万円（1事案につき）

【重傷病見舞金】

犯罪などの被害により、重い傷病の被害を負った被害者…10万円（1事案につき）

申請・問合せ 人権推進課

※受給には申請が必要です。支給対象者の要件など詳しくは問い合わせてください。

泉佐野市に在住する小・中学校の児童・生徒から多くの人権作品が寄せられ、昨年末に入賞者が決定し、賞状が送られました。

そのなかの最優秀賞受賞作品の一部を紹介します。(順不同・敬称略)

問合せ先 学校教育課

【読書感想文】

「マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女」を読んで
日新小学校6年生 山口凜花

この本を読もうと思ったきっかけは、マララさんをテレビで見たことはあったけれど実際にどういう人なのかあまり知らなかったのもっとくわしく知りたいと思ったからです。

平和に楽しく学校に通うマララさんの町にタリバンがやってきました。タリバンとは、イスラムの教えを理由に女性の教育を受ける権利や、自立する権利をうばおうと人を殺したり、町を破壊したりする組織のことです。タリバンは全ての人達に対し、音楽をきいたり映画やテレビを見たりすることを禁止しました。また、女性が市場などの公共の場に出ることを禁止し、基本的に女性が外出することは許されませんでした。そして、女性は他人に肌を見せないように、テント状の布で全身をおおい目の部分のみ網状になっている「ブルカ」を着用しなければなりません。タリバンは女性の教育をやめさせるために、次々とたくさんの学校を破壊していきました。マララさんの学校では、毎日、ひとりまたひとりとクラスの友達が来なくなり、やめていく先生もいました。

この本を読んで、マララさんのように、学校に行きたいと思っていても行けなかったり、テレビや映画を見たくても見られなかったりする

人達がたくさんいるということを知りました。だから、自分が今、当たり前のように学校に行き勉強したり、テレビや映画を見たり、音楽をきいたりできることのありがたさがわかりました。そして、タリバンはなぜこのようなことをするのか考えてみました。タリバンが女性の教育に反対する理由は、みんなが勉強していろいろな知識を得てしまうとタリバンはみんなに反対されて、自分達の思い通りにいかなくなってしまうからだと私は思います。

この本を読む前は、学校に行き勉強することが面倒くさいと思ったり、毎日学校にいけることが当たり前だと思っていました。けれど、この本を読んだ後には、自分の暮らしている国や町は戦争がなく平和だということを改めて感じました。また、自分にとっての当たり前が世界には当たり前でない人が約6700万人もいることを知って、自分の今の生活に感謝しなければならぬと思いました。

宗教を理由に人を殺し、町を破壊することは決して許されることではありません。なので、私はもっとみんなにこの本を手にとってもらい、このような状況を知ってもらいたいと思いました。

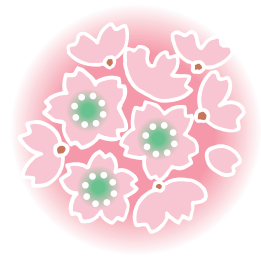
【標語】

違っていい 自分の個性 捨てないで

日新小学校6年生 晴明未空

普通って 誰が決めるの 自分の色

長南中学校2年生 山下瑠海楽



小・中学校人権作品 人権について考えよう

【詩】

「できること」

新池中学校2年生 尾崎由菜

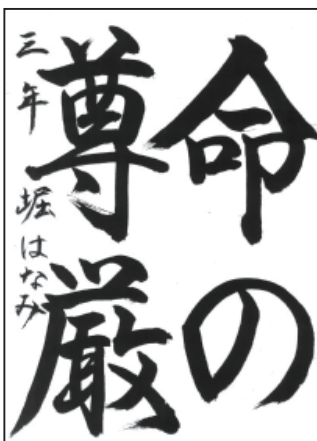
「今」この時も
 病気と闘っている人たちがいる
 私は病気を治すことも
 元気にすることも
 できない
 でも
 応援はできる
 髪を寄付した
 腰まであった長い長い髪を
 バッサリ切った
 この髪の毛が
 誰かの勇気や希望、笑顔になるために
 私はエールを送る
 ただの傍観者にならず、
 エールを送る
 「できない」を数えず、
 「できること」を探そう
 ほら
 「できること」を見つけたでしょ？

▶第一小学校6年生
福田紗菜



【書道】

▶日根野中学校3年生
堀はなみ



▶日新小学校6年生
伊藤龍成



【ポスター】

▶佐野中学校3年生
矢野楓佳

